

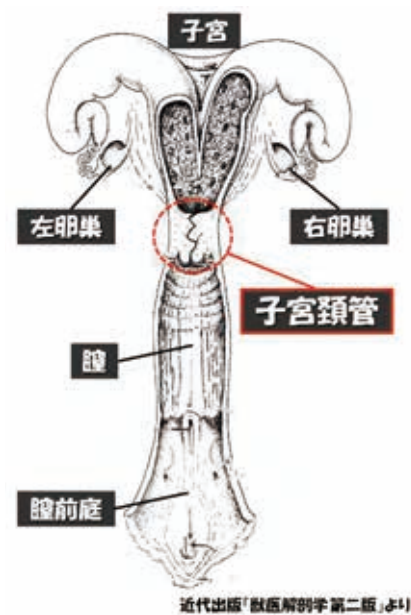
# 発情時の粘液について再考

釧路中部事業センター 虹別家畜診療所 獣医師 石川 行一

「明日へのかけはし」9月号で、道東3地区家畜人工授精技術研修大会のお話がありました。その中で釧路家畜人工授精師協会技術研究部会の「粘液性状による授精率と受胎率について」の発表があり、粘液性状は柔らかく、量が多いほうが授精率も受胎率も良いということでした。そもそも、発情の粘液とはどこから来るものなのでしょうか？

実は膣と子宮の間にある頸管というところから出てきます(図1)。

発情中だけではなく、それ以外の時期にも粘液はありますが、粘度が高く、硬い粘液になります。発情期の粘液は透明で水分を多く含み柔らかく牽糸性の高い(よく伸びる)といわれています(写真1)。筆者も大昔では「陰部から飛節あたりまで垂れているものが多い。ローションのようになっているほうが雄の生殖器も入りやすい」と教わりました(今ならセクハラですかね?)。ただ、それだけではなく、粘液がこのよう



近代出版「獣医解剖学第二版」より

図1



写真1

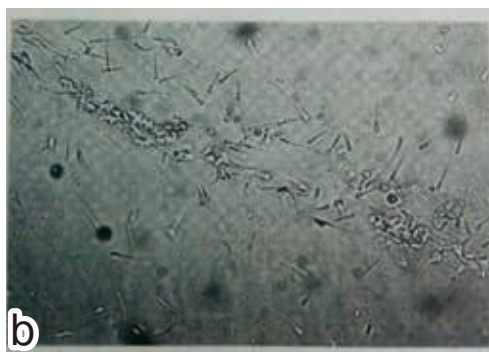
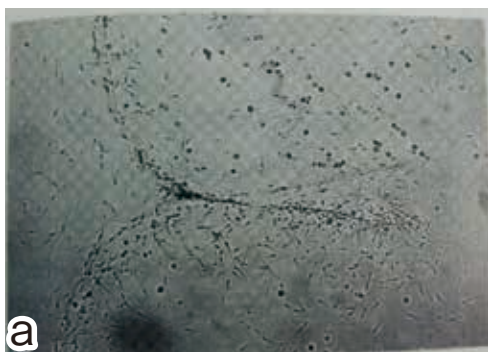


写真2: aが受容性あり、右側が粘液でスジのようなものが見えますが、粘液に向かって精子が向かっていきます。b受容性なし、下側が粘液だそうです